

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「第三国輸送及び空陸連携を踏まえた長距離旅客輸送の動向等に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者：加藤 一誠 氏 慶應義塾大学 商学部 教授 花岡 伸也 氏 東京科学大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 教授 水谷 淳 氏 明治大学 商学部 准教授 <div style="text-align: right;">(所属及び役職は当時のもの)</div>	
意見の概要	意見に対する対応状況
第三国輸送に関する欧州の調査対象を、ロンドン・ヒースロー空港及びパリ・シャルル・ド・ゴール空港としているが、最大のアライアンスであるスターアライアンスに加盟するルフトハンザ航空が拠点とするフランクフルト空港を調査対象に加えた方がよい。(花岡教授)	フランクフルト空港を第三国輸送の調査対象とした。(第2章第1節)
第三国輸送に関する長期的な戦略、将来構想等を重点的にヒアリングするとよい。また、第三国輸送に限らない全体的な将来構想等を聞き取った上で、第三国輸送の将来的な取組等の位置付けを確認するとよい。(花岡教授)	空港会社等及び航空会社に対し、第三国輸送に関する戦略、展望及び計画を聞き取り、整理した。(第2章第3節第3項から第7項及び第4節第1項)
ロンドン・ヒースロー空港のように運営会社の株主が変更となった場合に、当該変更が第三国輸送の取組を含む空港運営へ与える影響の把握は有益である。(加藤教授)	ロンドン・ヒースロー空港の運営会社に対し、主要株主の変更による経営判断への影響について、聞き取りを行った。(第2章第3節第4項1)(3))
空陸連携の実施における重要な検討事項として、荷物の運搬がある。列車利用時に旅客が荷物を運搬する必要があるという課題を解消できれば、利便性が大きく向上すると考える。(水谷准教授)	文献調査において、荷物の取扱いを取組ごとに整理するとともに、ヒアリング調査において、荷物の取扱いに対する認識、検討状況等を聞き取り、整理した。(第3章第2節第3項から第5項及び第3節第3項から第5項)
空陸連携における鉄道事業者の費用負担の状況及び国の関与の程度を明らかにできるとよい。(加藤教授) 空陸連携においては、航空会社が主体的に取組を行い、鉄道事業者は協力するという傾向があるため、航空会社を中心に調査を進めることが適切と考える。(水谷准教授)	文献調査において、対象国の航空会社の取組を中心に整理を行うとともに、ヒアリング調査において、乗継保証の費用分担、旅客対応窓口、価格の設定方法その他の航空会社及び鉄道事業者の役割並びに国(政府)からの要請内容について聞き取り、整理した。(第3章第2節第3項から第5項及び第3節第3項から第5項)